

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成20年8月28日(2008.8.28)

【公表番号】特表2001-508484(P2001-508484A)

【公表日】平成13年6月26日(2001.6.26)

【出願番号】特願平10-531215

【国際特許分類】

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 8 K 3/00 (2006.01)

C 0 8 K 5/00 (2006.01)

C 0 8 L 67/00 (2006.01)

C 0 8 L 77/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 101/00

C 0 8 K 3/00

C 0 8 K 5/00

C 0 8 L 67/00

C 0 8 L 77/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成20年7月10日(2008.7.10)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 物理的束縛により、非共有結合相互作用により、又は物理的束縛及び非共有結合相互作用の両方により樹枝状ポリマーに少なくとも1つの無機又は有機反応物である第1反応物を局在化させること；並びに

前記第1反応物を第2反応物と反応させることにより、大きさ及び大きさの分布が樹枝状ポリマーにより決定及び制御される離散的に存在するものとしてナノスケールレベルでコンポジット中に分散している反応生成物であって、樹枝状ポリマーに束縛されたか、樹枝状ポリマーに非共有結合的に接合したか又は樹枝状ポリマーに束縛され且つ樹枝状ポリマーに非共有結合的に接合した反応生成物に変換すること；

を含み、前記第1反応物と前記第2反応物の前記反応生成物が、前記樹枝状ポリマーが可溶性である溶剤に不溶性であることを特徴とする、コンポジット組成物の形成方法。

【請求項2】 (A) 物理的束縛により、非共有結合相互作用により、又は物理的束縛及び非共有結合相互作用の両方により樹枝状ポリマーに少なくとも1つの無機又は有機反応物を局在化させること；並びに

(B) 前記反応物を、大きさ及び大きさの分布が樹枝状ポリマーにより決定及び制御される離散的に存在するものとしてナノスケールレベルでコンポジット中に分散している反応生成物であって、樹枝状ポリマーに束縛されたか、樹枝状ポリマーに非共有結合的に接合したか又は樹枝状ポリマーに束縛され且つ樹枝状ポリマーに非共有結合的に接合した反応生成物に変換すること；

を含み、前記工程(A)において、第1溶媒とこの溶媒に可溶性である前記樹枝状ポリマーを含む第1相と、前記樹枝状ポリマーが不溶性である第2溶媒とこの溶媒に可溶性である前記反応物を含む第2相との混合相中において、前記反応物が、前記第1相と前記第2相の間の界面を通過して樹枝状ポリマー分子の内部に侵入することを特徴とする、コンポ

ジット組成物の形成方法。

【請求項3】 物理的束縛により、非共有結合相互作用により、又は物理的束縛及び非共有結合相互作用の両方により樹枝状ポリマーに少なくとも1つの無機又は有機反応物である第1反応物を局在化させること；並びに

前記第1反応物を第2反応物と反応させることにより、大きさ及び大きさの分布が樹枝状ポリマーにより決定及び制御される離散的に存在するものとしてナノスケールレベルでコンジット中に分散している反応生成物であって、樹枝状ポリマーに束縛されたか、樹枝状ポリマーに非共有結合的に接合したか又は樹枝状ポリマーに束縛され且つ樹枝状ポリマーに非共有結合的に接合した反応生成物に変換すること；

により調製され、前記第1反応物と前記第2反応物の前記反応生成物が、前記樹枝状ポリマーが可溶性である溶剤に不溶性であることを特徴とするコンジット組成物。

【請求項4】 (A) 物理的束縛により、非共有結合相互作用により、又は物理的束縛及び非共有結合相互作用の両方により樹枝状ポリマーに少なくとも1つの有機又は無機反応物を局在化させること；並びに

(B) 前記反応物を、大きさ及び大きさの分布が樹枝状ポリマーにより決定及び制御される離散的に存在するものとしてナノスケールレベルでコンジット中に分散している反応生成物であって、樹枝状ポリマーに束縛されたか、樹枝状ポリマーに非共有結合的に接合したか又は樹枝状ポリマーに束縛され且つ樹枝状ポリマーに非共有結合的に合した反応生成物に変換すること；

により調製され、前記工程(A)において、第1溶媒とこの溶媒に可溶性である前記樹枝状ポリマーを含む第1相と、前記樹枝状ポリマーが不溶性である第2溶媒とこの溶媒に可溶性である前記反応物を含む第2相との混合相中において、前記反応物が、前記第1相と前記第2相の間の界面を通過して樹枝状ポリマー分子の内部に侵入することを特徴とするコンジット組成物。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】発明の詳細な説明

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【発明の詳細な説明】

明細書第19頁第21行における「単一反応物」を『単一反応物の生成物』に誤訳訂正する。